

「江州音頭」について調べるには

幕末の頃、祭文語りの名人、桜川雛山に弟子入りし、本格的に祭文語りの修行をした八日市の西沢寅吉は、念仏踊り、歌念仏も採り入れ人気を博していました。明治初年、豊郷の千樹寺観音堂の再建の折、西沢寅吉が招かれ、当日は彼の音頭によって村人たちも踊り明かしたと云われています。この音頭は八日市・豊郷を中心に近江路一帯に広がり、また、美濃や伊勢などにも評判が伝わり、江州音頭として定着したものです。西沢寅吉（初代・桜川大龍）を輩出した八日市は江州音頭発祥の地です。（『まるごと東近江百科』より）



図書館の資料で調べる

◆『江州音頭』

深尾 寅之助／著、白川書院、1971年

江州音頭について、全般的に網羅した資料です。踊り方の写真も掲載されています。

◆『江州音頭 滋賀の郷土芸能』

滋賀県江州音頭普及会

6ページのカラー小冊子。江州音頭で使う道具類や踊っている様子を豊富な写真で紹介しています。説明文には英語訳もついています。

◆『八日市市史第三巻 近世』

八日市市史編さん委員会／編、八日市市役所、1986年

「第九章 近世八日市の学芸と文化」で、江州音頭の起源や桜川大龍について詳しい記述があります。

◆『湖国百選 祭／踊』

滋賀総合研究所／編、1990年

『湖国百選』シリーズの「祭／踊」編。県内100の祭を取り上げ、豊富な写真で紹介しています。

◆『近江の先覚 第三集』

滋賀県教育会、2006年

明治・大正・昭和・平成の初期に活躍した近江の偉人74名を「郷土の誇るものづくり・まちづくりに努めた人」「文化・芸術・学問の香りを高めた人」「郷土に生きる人づくりに励んだ人」の3項目に分けて紹介しています。桜川大龍について詳しい記述があります。

◆『湖国と文化 第37号』

滋賀県文化体育振興事業団、1986年

◆『湖国と文化 第40号』

滋賀県文化体育振興事業団、1987年

滋賀の文化を発信する季刊誌です。江州音頭については、佛教大学教授・関山和夫氏の「近江の仏教芸能」（37号）、民謡・民俗研究家・右田伊佐雄氏の「大阪から観た『江州音頭』（40号）」が掲載されています

◆『日本民謡事典』

長田 暁二・千葉 幸蔵／編、全音楽譜出版社、2012年

全国で今なお歌われている代表的な民謡や新民謡を主に全259曲を収録。それぞれに歌詞と楽譜、詳しい解説もついています。

参考ウェブサイト

◆滋賀県江州音頭普及会事務局

<http://go-shu.biwako-visitors.jp/index.html>

◆豊郷町江州音頭保存会

<http://www.toyosato-maketown.jp/index.html>